

日本プレミア上映 映画「ミス・プレジデント」 上映と監督のトーク



二〇一七年十一月二六日(日)
午後2時半開場 2時45分上映 ※上映後に監督のトークあり
立命館大学衣笠キャンパス 充光館301教室(地下)

主催：立命館大学国際言語文化研究所 ジェンダー研究会

共催：立命館大学コア研究センター

お問い合わせ：立命館大学国際言語文化研究所 Tel:075-465-8164 E-mail: genbun@st.ritsumeji.ac.jp

※事前予約不要・入場無料(定員170名)

死ぬほど愛しています

～映画「ミス・プレジデント」(미스 프레지던트 Mis-President)について

キム・ジェファン監督 / ドキュメンタリー / 韓国 / 2017年 / 85分 / 日本語字幕入り

清州(チョンジュ)に暮らす農民のチョ・ユッキョン氏は毎朝起きると身なりを整えて朴正熙(パク・チョンヒ)の写真に礼をして、国民教育憲章を暗唱する。自らをセマウル運動の担い手と呼んでいた朴正熙大統領への感謝の念が彼の生きる力であり、人として生きる道理になっている。

蔚山に暮らすキム・ジョンホ氏とその妻は、朝鮮戦争直後に、村々で人が飢え死んでいく様子を間近に見ながら空腹という原初的恐怖を解決してくれた「朴正熙大統領のことを考えるだけで目に涙が浮かぶ。白い韓服を着て病者を抱きしめていた大統領夫人・陸英修(ユク・ヨンス)女史の話が出てくるだけで、死んだ母を懐かしむかのように悲しみと思いが押し寄せる。

朴正熙、陸英修の娘、朴槿恵(パク・クネ)の弾劾という衝撃的な出来事は、彼ら・彼女らの世界をひっくり返してしまうのだが……。

開催趣旨 〈ミスプレジデント〉は、朴氏の強固な支持層である「朴槿恵を愛する会」(「朴サモ」)の人々の心情を丹念に取材した映画である。彼らは大統領の弾劾を求める「ろうそくデモ」に反対するデモの中心となり、街頭で朴槿恵の正当性を訴えた。朴氏に対する絶対的な信頼の源流にあるのは父親の影である。父と娘、「娘」を見守る支持者たち……。保守と革新(進歩)のイデオロギー対立に並んで、ジェンダー政治が今も韓国社会を支配している点にも注目したい。

キム・ジェファン監督

テレビプロデューサー出身。映画を通して社会を批判・風刺してきた。2012年には李明博政権を扱ったブラックコメディ「MBの追憶」を監督。2014年には韓国の教会がもつ矛盾を告発する「クオ・バディス」を演出した。2017年、朴槿恵を素材にした「ミス・プレジデント」を監督。

プログラム

- 14:30 開場
- 14:45-14:50 挨拶
- 14:50-16:15 上映
- 16:15-16:30 休憩
- 16:30-17:30 監督のトーク

(逐次通訳あり)

アクセス

立命館大学 衣笠キャンパス

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

- 市バス15・50・59「立命館大学」
- 市バス204・205「わら天神」「衣笠校前」
- JR・近鉄 京都駅より 市バス50・JRバス
- JR・地下鉄 二条駅より 市バス15・55
- 地下鉄 北大路駅より 市バス204・205
- 京阪電車 三条駅より 市バス15・59
- 阪急電車 西院駅より 市バス205
- 阪急電車 烏丸駅より 市バス51・55

